

茨城大学農学部研究室訪問交流会のご案内

主催 茨城産業会議 / 茨城大学
共催 いばらき成長産業振興協議会

茨城産業会議と茨城大学は、産学連携事業として、隔年で茨城大学農学部の研究室訪問交流会を開催しております。本交流会は、大学の有する教育研究の成果を地域の皆様に還元し、情報交換を通じて産業経済界の活性化を目的に開催しております。

茨城大学とパートナーとして協力し合い、相互に発展できることを期待して交流会を開催いたします。研究発表の聴講や研究室見学及び研究交流相談などのほか、農学部学生のインターンシップの現状説明を行い、受入れの可能性等についての情報交換を実施いたします。多数の方々のご参加をお待ちしております。

1. 期 日 平成29年12月1日(金) 13時30分～18時00分
2. 会 場 茨城大学農学部 こぶし会館2階研修室(別添案内図参照)
茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1 029-887-1261(茨城大学農学部総務係)
3. 参加対象者 法人・個人を問いません。
4. 参加費 無料
5. 申込方法 参加申込書に所定事項を記入の上、以下の申込先へFAXまたはメールで申込みください。 申込締切日：11月24日(金)

< 連絡先 >

申込先団体	TEL / FAX
茨城大学社会連携センター地域連携課	TEL:029-228-8585 FAX:029-228-8495 メール renkei@ml.ibaraki.ac.jp
(一社)茨城県経営者協会(茨城産業会議事務局)	TEL:029-221-5301 FAX:029-224-1109 メール info@ikk.or.jp
茨城県商工会議所連合会	TEL:029-226-1854 FAX:029-224-7117
茨城県商工会連合会	TEL:029-224-2635 FAX:029-226-0955
茨城県中小企業団体中央会	TEL:029-224-8030 FAX:029-224-6446

< 内容 >

時間	内容
挨拶 13:30～13:40	茨城大学社会連携センター長 影山 俊男 茨城県商工会連合会 専務理事 野澤 勝
新しい農学部の教育研究について 13:40～13:55	茨城大学農学部長 久留主 泰朗
研究発表 (質疑応答) 14:00～14:30	「うつ病モデルマウスを用いた地域農産物の機能性探索」 (准教授 豊田 淳) 食生活はうつ病の発症に影響するのでしょうか？私たちはうつ病モデルマウスを使って、その問いに対する答えを出そうと日々研究を重ねています。これらの研究の中から、今回は筑波山麓で生産される「フクレミカン」について最新の研究成果をお話します。また、茨城大学の重点研究である農医連携プロジェクトについてもご紹介いたします。

招待発表 (質疑応答) 14:30～15:00	<p>「企業と大学の共同研究 ～エンドファイトを利用した新しい作物栽培を目指して～」 (パイオニアエコサイエンス株式会社 菊地 聖永)</p> <p>私は茨城大学農学部在学中「共生微生物(エンドファイト)の作物栽培への利用についての研究」に取り組んでいました。その過程で共同研究を行うことになった種苗会社に卒業後就職し、現在も茨城大学農学部との共同研究を担当しています。企業と大学の共同研究の一事例について学生目線と企業目線から紹介します。</p>
農学部のインターンシップ事業について 15:00～15:10	<p>「農学部のインターンシップ事業について」 (就職指導講師 岡田 久美子)</p> <p>農学部3年次を履修対象としたインターンシップ(選択1単位)を開講しています。毎年参加者数が増加しており、学年の過半数が参加しています。今年の状況、参加学生の感想や気づき、受入れ企業様からの感想を紹介するとともに、次年度に向けてご協力いただける企業様への参加を募ります。</p>
研究室訪問 15:10～16:40	<p>研究室訪問・見学方法の案内 研究室を自由に見学 会場を移動願います。(農学部研究管理棟) (見学可能な研究室は次表のとおりです)</p>
懇談交流会 16:50～18:00	<p>会場：第1会議室(農学部研究管理棟2階) 会費：無料(軽食を用意します。)</p>

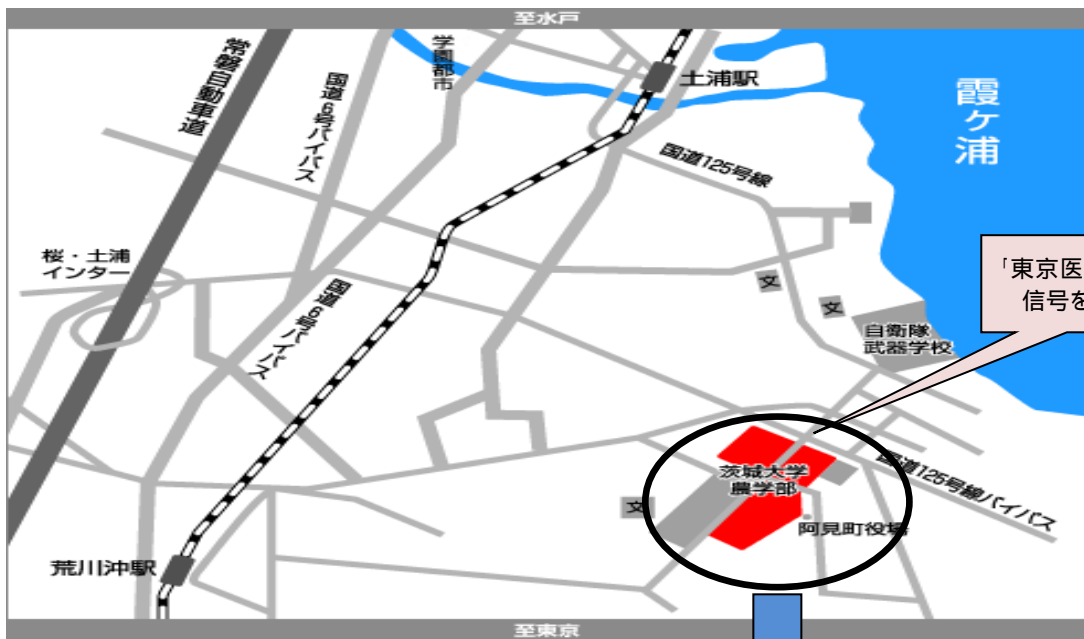
研究室訪問

所属	研究室名	氏 名	研究概略
食 生 命 科 学 科	飼料資源科学研究室 (636号室)	豊田 淳 准教授 佐藤 瑞穂(博士1年)	飼料資源科学研究室では、以下のテーマに取り組んでいます。うつ病モデルマウスの作製とその評価に関する研究。社会心理的ストレスへの抵抗性(レジリエンス)を付与する栄養素の探索。3次元行動解析法の開発。動物園動物の行動および栄養生理研究。
	食品保蔵学研究室 (405号室)	中村 彰宏 准教授	食品を一定の品質で安定的に製造し、消費者の多様な嗜好性に合った食品に仕上げる上で重要なのが「食品の設計」です。当研究室では、食品の設計において、加工性と保存性の向上や最終製品の物性(食感)を調整する上で不可欠な多糖類に注目し、研究を進めています。具体的には、農産未利用資源から多糖類を抽出し、プロバイオティクスとして注目される乳酸菌飲料の分散安定剤、食品香料の乳化安定剤、高齢者食の増粘ゲル化剤としての多糖類の物性機能を評価し、茨城大学独自素材の開発を目指しています。
	生物制御化学研究室 (102号室)	長谷川 守文 准教授	植物が病原菌に対して自分の身を守るために作る抗菌性物質であるフィトアレキシンの研究を行なっています。低分子有機化合物を取り扱う研究を中心に行っていて、HPLC, LC/MS/MS, GC/MS, NMRなどの機器分析による化合物の精製・構造解析や微量分析などが得意です。

地域総合農学科	応用動物学研究室 (433号室)	北嶋 康樹 准教授 齋藤 弘之 (修士2年)	ハダニ類の紫外線 (UV-B) による DNA 損傷応答を、 γ -H2AX の動態を可視化することによって解析しています。 γ -H2AX は、DNA 損傷発生後、数秒以内に損傷部周辺に形成される物質です。直射日光にさらされるような環境に生息しているハダニは、紫外線耐性が高く、 γ -H2AX の形成も速やかであることが明らかになりました。
	園芸学研究室 (325号室)	井上 栄一 教授 藤井 智教 (修士2年)	果実 (ナシ、クリ、ブルーベリー、ウメ) や野菜 (レンコン、イチゴ) などの園芸作物を対象として、生産物の品質向上や収穫後の機能性成分や品質の維持に関する研究を展開しています。とくにレンコンにおいては、生産者および産官学からなる「国産レンコンのブランド力を強化コンソーシアム」を組織して、国内消費と輸出拡大を目指したプロジェクト研究を推進しています。
	農業生産システム工学研究室 (504号室)	岡山 毅 准教授 山梨 智史 (修士1年)	近年安価に入手可能となってきた3次元カメラを用いたキノコの形成過程や動物の行動解析、またドローンを用いたカバークロープの3次元成長解析に取り組んでいます。また屋内で実施可能な園芸療法プログラムの開発にも取り組んでいます。
教育研究センター	農業安全管理学研究室 (第2会議室)	小松崎 将一 教授	環境保全型農業・有機農業の技術について、有機質肥料の利用、食品残渣コンポスト、緑肥、輪作、不耕起栽培、低硝酸野菜生産、土壌炭素蓄積、園芸療法などの研究を実施しています。また地域農家との連携した取り組みを実施しています。

茨城大学農学部の学科や教授陣について詳しくお知りになりたい場合は、同学部のホームページをご参照ください。 アドレス <http://www.agr.ibaraki.ac.jp/summary/teachers/index.html>

会場案内図



至 R125 バイパス

